

没後30年記念出版

映画史家 塚田嘉信：私家版・旧蔵貴重資料復刻大成

第Ⅰ期 塚田嘉信 私家版復刻集成

企画・監修 ● 独立行政法人 国立美術館 国立映画アーカイブ

解題・解説 ● 本地陽彦（日本映画史研究家・国立映画アーカイブ客員研究員）

全7巻



初期日本映画史研究、
映画雑誌創刊号コレクションの第一人者、
塚田嘉信の幻々の業績の全貌。

電子書籍版
同時刊行予定

ゆまに書房

孤高の映画史家・塚田嘉信氏の精神と知性の集積

—映画史研究の、新たな世紀の始まりに向けて—

国立映画アーカイブ

我が国に於ける映画史研究は、遅々たる歩みながらも、この道を進むことを選んだ決して多くはない篤志家によって、開拓され、発展を続けて来た。その篤志家の名を挙げれば、吉山旭光、水野一二三、田中純一郎といった方々が直ぐにも思い浮かぶが、それでも尚、研究の基幹たるべき映画作品そのものの全体像、例えて言えばそれらの封切日、封切館といった基本情報を始めとし、数多ある小規模な製作会社やプロダクションから送り出された作品といったものは、根拠となる確たる記録も不十分なままに映画史が語られて来たのではなかったか。否、大手の映画会社のそれでさえ、製作、公開記録もまた決して満足し得るものではなかった。そもそもが、賞味期限のある商品の如くに扱われて来た映画作品であってみれば、それもやむを得ぬこととされて済まされて来た。

だがしかし、個々の映画作品の、信頼し得るデータベース無くして、どうして映画史研究が成立し得ようか。即ち、映画界公認とも呼べる映画史の確立の為には、それらの記録の調査、発掘が最優先の課題であった。その充実、完成に挑戦しようという試みは、戦前の『キネマ旬報』誌上に連載された「日本映画史素稿」によって始まった。がしかし、この採算を度外視した折角の企画も、戦時下の雑誌統合によって中絶し、映画史最初期の素材の提供に留まって一冊に纏められることも無かったのである。

戦後になって逸早く、改めてそうした作業の再開、継続の必要性を呼び掛けたのが、若干二十代半ばの塚田嘉信氏であった。戦中の中学生時代から映画鑑賞に夢中になるとほぼ同時期に、その鑑賞作品を克明に記録しつつ、また、映画雑誌の購読と並行して映画文献の蒐集にも取り組み始める。敗戦を経てやがてのことに映画雑誌投稿欄にも、塚田氏の呼び掛けに理解を示す投稿者も現れて、互いに研究を支え合う仲間となり、更には映画ジャーナリズムとは距離を置いて独自の研究を開始する。その発表の場となったのが、所謂「私家版雑誌」である。だがしかし、こうした雑誌の多くは少部数が研究仲間配布されるだけであった為に、専門の研究者でさえ手にすることは稀であった。

塚田氏は、そうした中でも、映画公開記録を充実させることに最も熱心であり、仲間の中でもとりわけ若い世代の研究者でありながら、常に徹底して記録、資料の探索を率先して行って来た。信頼し得る映画史の確立の為には、先ずは信頼し得る資料を手許に揃えることは当然であるという覚悟と共に、その後も生涯にわたって数多の優れた研究

を私家版誌上に展開し続けた。

だがしかし、その研究も、資料コレクションの実態も殆ど知られぬままに、平成七年末に急逝された。そして亡くなられてから二十余年を経た平成三十年、氏の業績、所蔵資料、文献類を大切に保存されて来たご遺族から、ここ国立映画アーカイブがそれら一切の寄贈を受けた。

今回の復刻は、その氏の旧蔵資料から選り出した、塚田氏にとって謂わば「試作版」とも言える最初の私家版から、その決定版ともなった『映画史料発掘』に至るまでの、氏の作成、発行した私家版の全てを網羅し、更にはいずれは世に問うたであろう製作途中のものまでも重要な業績の一部と捉えてリストに加えた。未完成のものを含めることは、氏の意向に沿わないことは承知の上だが、類書の無い研究でもあるので、敢えて復刻の対象とした。

加えて、氏の研究仲間たちが手掛けた私家版研究雑誌の多くも揃えた。恐らく、これ程充実したレベルで所蔵している研究者も氏の他には居ないであろうと考えてのことだが、当然ながら同時に氏の研究姿勢をも伝える重要資料でもある。また、塚田氏が公開記録の基礎資料、文献として所蔵していた、他の機関等にも所蔵が無い、今日では入手の機会も限られた稀本をも加えた。

それでも尚、氏の研究の全貌を伝えるには不十分なのであるが、映画史研究者にとっては勿論のことだが、広く歴史研究に携わる者も、知られざる氏の業績に触れることで、インターネット、デジタル化、AIが加速度的に研究環境にも影響を及ぼす時代にあつてこそ、改めて歴史研究とは何か、歴史資料とは何か、を再発見するまたとない機会となる筈である。更には、氏の遺されたこれらの基礎資料、文献を基にした今後の新たな視点での研究への挑戦も、決して大袈裟ではなしに、無限大の可能性をも秘めていることを確信する。塚田嘉信氏という一個人が成し遂げた、その偉業を正しく評価する為にも、それは私たちに求められている責務でもあろうか。

最後に、個人的なことを記すことをお許し頂きたいが、私自身二十代半ばから氏の最晩年までの十五年程の間、極めて親しく接し、指導を仰いだ一人である。この復刻を契機として、私もまたもう一度立ち止まって歴史研究の「原点」を見つめ直し、研究の次なる新世紀をも切り開く作業に加わりたいと考える。その成果を、いまだ待ち続けているであろう塚田氏の許に届ける為にも。

(客員研究員 本地陽彦)

●第1巻●『映画史料発掘』（全36号／号外5号／特別号／付録）

1（昭和45年11月17日発行 塚田嘉信 非売品）小松宮殿下が活動写真を御覧になったのはいつか—日本映画史最初の資料について—（塚田嘉信） 2（昭和46年3月22日発行 塚田嘉信 非売品）東京におけるキネトスコープの興行記録について（塚田嘉信） 3（昭和46年5月26日発行 塚田嘉信 非売品）活動写真最初の一年〈明治三十年〉の記録：「東京における活動写真」（柴田勝・塚田嘉信 調査共編）／「関西における活動写真」（水野一二三調査・塚田嘉信編）／「別録 活動写真輸入前後の事情についての疑問点」（吉田智恵男） 4（昭和46年10月28日発行 塚田嘉信 非売品）「活動写真最初の一年 大阪における活動写真」（永見克也調査・塚田嘉信編述）／「史料発掘余話」（塚田嘉信） 5（昭和47年1月29日発行 塚田嘉信 非売品）続活動写真最初の一年（塚田嘉信） 6（昭和47年6月6日発行 塚田嘉信 非売品）続続活動写真最初の一年（吉田智恵男 塚田嘉信） 7（昭和47年10月28日発行 塚田嘉信 非売品）続続続活動写真最初の一年（藤川治水 塚田嘉信） 8（昭和48年2月15日発行 塚田嘉信 非売品）活動写真最初の一年〈補遺〉／明治31年の事柄 9（昭和48年4月15日発行 塚田嘉信 非売品）明治32年〈一八九九〉京阪神における活動写真 10（昭和48年6月15日発行 塚田嘉信 非売品）新居系ヴァイタスコープについての新資料 ジュレールと「明治の日本」をめぐって（塚田嘉信） 11（昭和48年8月15日発行 塚田嘉信 非売品）活動写真最初の一年／名古屋における活動写真（池永三郎 塚田嘉信） 12（昭和48年10月28日発行 塚田嘉信 非売品）明治三十二年〈一八九九〉東京における活動写真〈その1〉 13（昭和48年12月1日発行 塚田嘉信 非売品）ジュレールと「明治の日本」をめぐって〈その2〉 14（昭和49年2月14日発行 塚田嘉信 非売品）明治32年／東京における活動写真〈その3〉〈その4〉 15（昭和49年4月15日発行 塚田嘉信 非売品）明治32年までの補遺と年表 16（昭和49年10月28日発行 塚田嘉信 非売品）活動写真最初の一年 北海道における活動写真（池田博明調査・塚田嘉信編述） 17（昭和50年7月15日発行 塚田嘉信 非売品）名古屋関係明治32年の記録／北海道関係明治31年の記録／シネマトグラフの四条河原での試写実験について 18（昭和50年7月15日発行 塚田嘉信 私家版）「紅葉狩」資料：『大阪毎日新聞』昭和4年1月23日付ほか 19（昭和50年11月17日発行 塚田嘉信 私家版）〈発刊五周年記念〉「フランソワ＝コンスタン・ジュレールとダニエル・グリム・クロースについて」（吉田智恵男）／「ブラッチャリーニが二人いた」（塚田嘉信） 20（昭和51年2月17日発行 塚田嘉信 私家版）「明治33年／京阪神における活動写真」／「明治33年／名古屋における活動写真」 21（昭和51年5月17日発行 塚田嘉信 私家版）活動写真渡来八十年記念：日本における最初の映画文献 大東楼主人著「自動写真術」（全文） 22（昭和51年7月15日発行 塚田嘉信 私家版）明治33年東京〔明治33年当時の新聞より活動写真関係の広告22点を採録〕 23（昭和51年7月15日発行 塚田嘉信 私家版）「明治33年／東京における活動写真」 24（昭和51年10月15日発行 塚田嘉信 私家版）「明治33年／東京における活動写真（2）」 25（昭和52年1月15日発行 塚田嘉信 私家版）「明治33年／東京における活動写真（3）」 26（1977年5月26日発行 塚田嘉信 私家版）〈祝柴田勝氏八寿記念〉：「明治33年／東京における活動写真〈4〉 鷹治郎の「紙屑屋」をめぐって」（柴田勝 塚田嘉信） 27（1977年7月15日発行 塚田嘉信 私家版）「明治33年／東京における活動写真〈5〉」／「名古屋における活動写真〈追補〉」 28（1977年10月28日発行 塚田嘉信 私家版）「明治33年／東京における活動写真〈6〉」／「明治33年までの補遺」 29（1978年1月15日発行 塚田嘉信 私家版）「明治33年／北海道における活動写真」／「高木某とは誰か」／「日本映画史年表」 30（1978年1月17日発行 塚田嘉信 私家版）「高木某とは誰か—解決篇—」・「高木永之助」は横田永之助氏であった」（太田垣実） 号外（1978年2月25日発行 塚田嘉信 私家版）「日本映画史最初の史料」にはまだ、そのあとがあった」〔荒尾親成「神戸と活動写真」「神戸に活動写真がやってきた」に関する記述〕 31（1978年5月26日発行 塚田嘉信 私家版）横田永之助氏について（1） 32（1978年7月15日発行 塚田嘉信 私家版）横田永之助氏について（2） 33（1978年10月8日発行 塚田嘉信 私家版）横田兄弟商会の成立について 34（1979年10月28日発行 塚田嘉信 私家版）横田兄弟商会の夷谷座の興行をめぐって 35（1980年6月23日発行 塚田嘉信 私家版）明治34年 京都における活動写真—京都日出新聞による— 36（1980年10月28日発行 塚田嘉信 私家版）明治34年 大阪における活動写真 号外（1981 塚田嘉信 私家版）「日本映画史の研究」その後—明治30年の興行記録・補正— 号外（1982 塚田嘉信 私家版）「日本映画史の研究」その後② もう一つの活動写真—長崎へ来たプロジェクトスコープ—プロジェクトスコープの長崎公開資料 号外（1983 塚田嘉信 私家版）「日本映画史の研究」③ もう一つの活動写真〈承前〉—長崎へ来たプロジェクトスコープ— 特別号 香港および上海における初期映画上映の記録（塚田嘉信 私家版／1983） 特別号 香港および上海における初期映画上映の記録（縮小版）（塚田嘉信／私家版 1983）（昭和58年1月1日発行 塚田嘉信） 号外（平成元年2月16日発行 塚田嘉信 私家版）「日本映画史の研究」その後④：長崎におけるシネマトグラフの公開資料 付録〈発刊十周年記念〉（塚田嘉信・私家版） 付録〔1〕はじめに発明がなかった。／付録2 こんなよびかたもあった／付録3〔蓄動器、見動器の名で紹介された…〕／付録4 三木福輔氏提出の「自動写真興行願」／付録5 柴田忠次郎氏提出の「号外外国人雇入届」／付録6〔「従来いまだ無かりし日本画」が登場したのは、…〕／付録7〈付録について〉／付録S〔THE JAPAN WEEKLY MAIL [July 18, 1891.]〕（塚田嘉信）

●第2巻● 『映画雑誌創刊号目録』（大正篇／昭和篇／補遺篇／続・補遺篇）

▼『映画雑誌創刊号目録 大正篇』（塚田嘉信編 昭和40年6月6日発行 塚田嘉信）

『活動之友』第1巻第1号（大正2年1月1日発行 活動之友社）～『演芸とキネマ』（大正15年12月12日発行 田形哲也 名古屋新聞 京都支局）

▼『映画雑誌創刊号目録 昭和篇』（塚田嘉信編 昭和40年10月10日発行 塚田嘉信）

戦前：『説明時代』新年・創刊号（大正16年1月1日発行 全国説明者聯盟本部）～『映画』創刊号（昭和16年1月1日発行 大日本映画事業聯合会）

戦後：『近代映画』第1巻第1号（昭和20年12月1日発行 近代映画社）～映画プレス改題『週刊映画ニュース』第916号（昭和40年7月24日発行 全国映画館新聞社）

▼『映画雑誌創刊号目録 補遺篇』（塚田嘉信編 昭和41年12月31日発行 塚田嘉信）

『活動評論』第1年第1号（大正7年12月1日発行 活動評論社）～『別冊映画之友 スクリーン・ストーリー』（昭和41年12月10日発行 映画の友）〈大正19種・昭和戦前16種・昭和戦後40種〉

▼『映画雑誌創刊号目録 続・補遺篇』（塚田嘉信 私家版 昭和60年8月1日 非売品）

『通俗教育活動画報』第1号（明治45年3月5日発行 中村淳 東京タイプ社）～『シネアスト』1（1985年7月10日発行 青土社）〈明治1種・大正31種・昭和戦前39種・昭和戦後157種・テレビ関係17種〉

●第3巻● 初期私家版雑誌等集成

▼『日本映画史基礎資料集成〈活動写真渡来前後〉目次』（昭和43年9月現在 塚田嘉信）

▼『日本映画初期の資料を整理する』（昭和44年3月 塚田嘉信）

映画の輸入について／キネトスコープについて／稲畑系シネマトグラフの公開について／荒木系ヴァイタスコープの公開について／新居系ヴァイタスコープの公開について／吉沢系シネマトグラフの公開について

▼『映画資料』（塚田嘉信／調査資料 昭和45年10月10日）〔未刊〕

小松宮殿下が活動写真を御覧になったのはいつか—日本映画史最初の資料について—（昭和45年10月9日）／映画史研究メモ

▼『映画史料』（全5号／付録1号 1957年10月～昭和34年5月 映画資料研究会）

No.1（1957年10月28日）「特別寄稿 映画資料の重要性について」（ジョルジュ・サドル）／「史的定型論序説」（一置夏洋）／「伊丹万作と池田忠雄」（吉田智恵男）／「昭和年代日本映画監督別総目録」ほか 『銀座並木座上映作品総目録 1953.10～1957.10』（映画資料創刊号附録 細谷勝雄編 1957年10月） **No.2**（1958年3月1日）尾上松之助特集 「人格者尾上松之助」（伊奈精一）／「尾上松之助の思ひ出」（三宅周太郎）／「尾上松之助の生涯」（吉田智恵男）／「尾上松之助主演映画総目録」／昭和年代日本映画監督別総目録 **No.3**（1958年7月15日）「日活向島時代」（田中栄三）／「日活向島時代小史」（吉田智恵男）／「日活向島撮影所製作映画総目録」／「日活向島映画人名鑑」 **第4号**（昭和33年12月15日）「『深山の乙女』の撮影費」（梶山教正）／「映画芸術協会の足跡」（吉田智恵男）／「昭和年代日本映画監督別総目録」ほか **第5号**（昭和34年3月15日）映画文献特集その一 「明治大正期の映画文献あれこれ」（吉田智恵男）／「映画文献一覧・明治大正篇」／「映画関係雑誌通信一覧」／「昭和年代日本映画監督別総目録」ほか

▼『映画資料通信』（全5号 昭和33年7月～昭和35年11月 映画資料研究会）

第一号（昭和33年7月15日発行）「昭和三十三年度上半期 日本映画監督別総目録」（細谷勝雄編）／「昭和三十三年度上半期 主要映画雑誌掲載 シナリオ一覧」（浦野明編） **第二号**（昭和34年1月20日発行）「昭和三十三年度下半期 日本映画監督別総目録」（調査・細谷勝雄）／「昭和三十三年度下半期 主要映画雑誌掲載 シナリオ一覧」（調査・浦野明） **第三号**（昭和34年7月20日発行）「昭和三十四年度上半期 日本劇映画監督別総目録」／「昭和三十四年度上半期 主要映画雑誌掲載 シナリオ一覧」（調査・細谷勝雄・浦野明） **第四号**（昭和35年1月15日発行）「昭和三十四年度下半期 日本劇映画監督別総目録」（調査・細谷勝雄）／「昭和三十四年度下半期 主要映画雑誌掲載 シナリオ一覧」（調査・浦野明） **第五号**（昭和35年11月1日発行）「昭和三十五年度上半期 日本劇映画監督別総目録」（調査・細谷勝雄）／「昭和三十五年度上半期 主要映画雑誌掲載 シナリオ一覧」（調査・浦野明）

▼『資料・会社シリーズ』（全4号 昭和36年 映画資料研究会）

1『新東宝映画一覧表』（細谷勝雄編）昭和22年2月25日～昭和36年5月31日／未完成作品 **2『大映映画一覧表』（細谷勝雄編）**昭和17年5月14日～昭和37年6月17日 **3『日活映画一覧表』（細谷勝雄調査）**昭和29年6月29日～昭和38年3月31日 **4『東**

映映画一覧表（細谷勝雄編）昭和24年11月20日～昭和39年6月20日／東横映画 昭和22年9月16日～昭和25年1月24日／第二東映映画一覧 昭和35年3月1日～昭和36年2月7日／ニュー東映映画一覧 昭和36年2月14日～11月1日

▼『**日本映画監督別総目録**』（細谷勝雄編 昭和37年2月25日発行 映画資料研究会）

昭和20年～36年／監督別索引

▼『**映画どうらく**』（全7号 1964年4月～10月）

No.1（1964年4月1日 塚田嘉信 細谷勝雄）「昭和三十八年度 日本映画監督別目録」（細谷勝雄編） **No.2**（1964年5月1日 塚田嘉信 細谷勝雄）「映画資料研究会リポート（1）荒居商会についての疑問」（瀧輪三樹）／「活動写真を主とした私の自叙伝」（柴田勝）／「東京の映画館、上映番組変遷記録 昭和39年1月～2月」ほか **No.3**（1964年6月1日 塚田嘉信 細谷勝雄）「映画資料研究会リポート（2）映画史に対する態度について」（佐野篤）／「明治時代の説明振り」（水野一二三）／「活動写真を主とした私の自叙伝（2）」（柴田勝）／「資料 アート・シアター上映作品目録」（調査・細谷勝雄）／「東京の映画館、上映番組変遷記録 昭和39年3月～4月」ほか **No.4**（1964年7月10日 「映画どうらく」編集室）「映画資料研究会リポート（3）活動写真東京公開についての一資料」（佐野篤）／「日本映画の百人 池永浩久」（吉田智恵男）／「活動写真を主とした私の自叙伝（3）」（柴田勝）／「東京の映画館、上映番組変遷記録 昭和39年5月～6月」ほか **No.5**（1964年9月10日 「映画どうらく」編集室）「水野一二三氏の死を悼む」／「活動写真を主とした私の自叙伝（4）」「同（5）」（柴田勝）／「資料 映画化された漫画家と作品一覧」（調査・細谷勝雄）ほか **No.6**（1964年10月5日 「映画どうらく」編集室）「キネトスコープへの一考察」（梅村紫声）／「活動写真を主とした私の自叙伝（6）」（柴田勝）／「昭和初頭の台北映画界」（海野幸一）／「続日本映画書誌（一）」（塚田嘉信）ほか **終刊号**（1964年12月1日）「映画資料研究会リポート（4）中島敬一とその同志たち」（吉田智恵男）／「活動写真を主とした私の自叙伝（7）」（柴田勝）／「昭和初頭の台北映画界（その二）」（海野幸一）ほか

▼『**日本映画史の研究**』 **第1号**（昭和54年11月17日発行 塚田嘉信 私家版）

「明治34年 京都における活動写真—京都日出新聞による—」

▼『**“入場税と映画館の入場料金”の変遷**』（1985年 塚田嘉信 私家版）

昭和13年4月1日～昭和20年8月15日／「昭和20年1月～8月東京都区内封切館の移動」／「東京都映画興行場戦災館一覧」／昭和20年11月22日～昭和50年4月1日／「日比谷映画劇場開場以来の正月興行入場料金一覧」

▼『**東京主要常設館 “その日その時”**』（無刊記）〔未刊か〕

「昭和元年12月31日“昭和の映画界の幕あき”現在、東京主要常設館番組一覧」／「昭和2年4月29日“邦楽座パラマウント社直営初興行初日”現在、東京主要常設館番組一覧」／「昭和2年8月5日“内藤紫漣隠退惜別説明者競演獅子吼大会初日”現在、東京主要常設館番組一覧」／「昭和2年10月14日“日本で始めて出来たものいふ活動・映画界の驚異発声映画公開初日”現在、東京主要常設館番組一覧」

●第4巻● 映画雑誌総目次集成

▼『**雑誌『活動之友』総目次**』（塚田嘉信 私家版 1983年）

第1巻第1号より表紙・目次・主要記事（「発刊の辞に代ふ」（故・烏鷺人）／「故烏鷺人と活動写真」（佐藤嶽芳）／「活動写真はこんな設備で撮られる」ほか／第2巻第2号より表紙・目次／第1巻第3巻より表紙・目次／第1巻第4号より表紙・目次／「活動之友」奥付記載事項

▼『**雑誌『活動之世界』総目次**』（塚田嘉信 私家版 1983年）

口絵『活動之世界』表紙／創刊号・第1巻1月号より「創刊に臨みて」・目次／第1巻第2号～第1巻第12号より目次／第2巻第1号～第2巻12月号より目次／第3巻第1号～第3巻12月号より目次／第4巻1月号より目次・「噫鉄処先生」（活動之世界編輯局）・「故井出主幹葬儀彙報」ほか／第4巻2月号～第4巻4月号より目次／雑誌「活動之世界」奥付記載事項／「雑誌『活動之世界』特集記事並びに定価一覧」

▼『**明治～大正初期の映画雑誌について**』（1983年 塚田嘉信 私家版）

『**明治期に発行された映画雑誌について**』（塚田嘉信 私家版 1983年）

『通俗教育活動画報』『活動写真界』『活動写真』についての考証解説／『通俗教育活動画報』第1号より表紙・「発刊の辞」／「通俗教育 滑動画報」第1号の内容・奥付記載事項

『**大正初期の映画雑誌について**』（塚田嘉信 私家版 1983年）

『活動之友』第1巻第1号より表紙ほか／『フィルム・レコード』第1巻第1号より表紙・目次／『キネマ・レコード』第1巻第5号より表紙・目次／『芝居と活動』第1巻第1号より表紙・目次・「創刊にあたりて」(舟二)ほか／『活動写真雑誌』第1巻第1号より表紙・目次ほか／『活動之世界』第1巻第1号より表紙・目次・「創刊に臨みて」ほか／『活動之世界』第1巻第3号より表紙・目次ほか／『キネマ』第2年4月号より表紙・目次・「キネマ」発刊に就て／『活動画報』創刊号より表紙・「編輯便り」・目次／『フィルム画報』創刊号より表紙・目次・「発刊の辞に代へて」(なめらぎ)／『キネマ・レコード』第5年第50号より表紙・目次ほか／『活動評論』第1巻第1号より目次・「祝詞に代へて」(小林喜三郎)・「発刊に際して切に当事者の奮起を望む」(森富太)ほか／『ムービーニュース』第1巻第1号より表紙・目次・「発刊に臨みて」／『活動世界』第1巻9月号より表紙・目次・「発刊の挨拶」(活動之世界社)ほか／活動評論改題『活動倶楽部』第2巻9月号より表紙・目次／「各社発行雑誌の近況」／「大正初期の映画雑誌について」

▼『第二次映画雑誌統合時代〈昭和19～20年〉「映画評論」「新映画」「日本映画(改新号)」総目次』

(昭和61年1月20日発行 塚田嘉信 私家版)

『映画評論』第1巻第1号より表紙・「新発足に際して」・目次／「映画評論」総目次(第1巻第1号～第3巻第1号)／『新映画』第1巻第1号より表紙／「新映画」総目次(第1巻第1号～第2巻第6号ママ)／『日本映画』第9巻第4号より表紙／「日本映画」改新号総目次(第9巻第4号～第10巻第2号)

塚田嘉信氏資料の受け入れと、その後の経過

映画史家・塚田嘉信氏旧蔵資料の受け入れは、平成三十年四月二十五日、ご遺族(嘉信氏令妹)の当・国立映画アーカイブへの来館に始まる。「兄塚田嘉信の資料寄贈の相談」がそのご用件とのことであったが、すぐさま準備の為、先ずは館職員によるご自宅をお訪ねしての所蔵状況の確認を行い、その後の輸送業者との打ち合わせ、受け入れの為の専用書架の設置等を経て、同年七月四日にダンボール箱三百二十五箱分の資料、書籍類を京橋本館と相模原分館とに分けて搬入した。

塚田氏は生前、初期映画史研究の第一人者として、又は映画雑誌創刊号の膨大な数の所蔵者としては既に知られてはいたものの、そのコレクションの全容は、氏が例え求められようとも安易に公開することが無かったことも手伝って、寧ろ「幻」でもあった。従って、大まかな下見は済ませてはいたものの、搬入後は、一層の慎重を期すために改めて本館と分館での架蔵の選別を行った。

その資料類の特質はと言えば、氏は早くから熱狂的な映画ファンでもあったから、一般的な映画愛好家が所蔵するレベルのものもある程度含まれてはいるが、一方で映画史の基礎資料を徹底して手許に揃えることを生涯の目的としていたことから、重要な映画文献、雑誌類は勿論のこと、今回の復刻でも取り上げる私家版の数々や、企業の内部資料、公的な機関による特殊な刊行物といったものも、それが映画史を語る上で欠かせないものと評価したものであれば、殆どが欠号無く揃ってもいる。また、小さなプログラムやスチール写真一枚、新聞広告等のスクラップにしても、必ずと

言っている程、体系的映画史資料に位置付けられるものであり、同時に多くが手製のファイルに整然と収められてもいる。私の知る限りにおいても、それは個人での力量を遥かに超えるような空前の規模と質を持つものであり、ここ国立映画アーカイブにとっても最も相応しい、否、待ち焦がれた資料群とも言えるものである。

それらは今後の一般公開、利用へと向けて順次整理を進めつつあるが、その第一段階として、科学研究費の助成を受けて、『映画史家・塚田嘉信 そのコレクションと業績』と題して、受け入れ経過、資料の特質、整理を終えた雑誌類の詳細なリスト、塚田氏年譜等を収録の上、成果報告書として二〇二三年三月に刊行(非売)した。A4版三百八十頁に及ぶ大冊である。執筆者は、入江良郎、岡田秀則、紙屋牧子、大傍正規、佐崎順昭の各氏と本地である。更には、同助成事業の一環として、刊行と前後する三月十八日に館の小ホールを利用して、一般向けの報告会をも行った。その際、ホール入口脇に、私家版を含む塚田氏の著作刊行物全冊を展示した。恐らく、その全てを纏めて眼にするのは、来館者全員が初めてのことであった筈である。

今回の復刻版刊行は、従って謂わば塚田氏旧蔵コレクション公開への、第二段階とも言えるものである。資料の全容公開へは、まだ多くのハードルを超えねばならないが、この復刻版刊行の成果が、間違いなくそれを後押しする力ともなるであろう。

(本地陽彦)

●第5巻● 映画作品公開記録集成

▼『素稿 河合映画の公開記録』（全15号 昭和62年1月～3月 塚田嘉信・私家版 No.1～15）

その1 昭和3年（昭和62年1月発行）浅草公園・キネマ倶楽部における河合映画の封切記録（昭和3年3月1日～12月30日）／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品のメモ／昭和3年度の監督別作品製作リスト **その2 昭和4年**（昭和62年2月発行）浅草公園河合映画封切キネマ倶楽部の番組（昭和3年12月31日～昭和4年12月30日）／上映されなかった作品／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品についてのメモ／昭和4年度の監督別作品製作リスト **その3 昭和5年**（昭和62年3月発行）浅草公園河合映画封切キネマ倶楽部→河合キネマの番組（昭和4年12月31日～昭和5年12月30日）／封切られなかった河合映画／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品のメモ／昭和5年度の監督別作品製作リスト／河合集鳴撮影所平面図 **その4 昭和6年**（昭和62年4月発行）浅草公園・河合キネマの番組（昭和5年12月31日～昭和6年12月30日）／公開されなかった作品／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品のメモ／昭和6年度の監督別作品製作リスト／「日本映画プロダクション聯盟についてのノート（その1）」 **その5 昭和7年**（昭和62年5月発行）浅草公園・河合キネマの番組（昭和6年12月31日～昭和7年12月30日）／公開されなかった作品／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品についてのメモ／昭和7年度の監督別作品製作リスト／「日本映画プロダクション聯盟についてのノート（その2）」 **その6 昭和8年**（昭和62年6月発行）河合キネマの番組（昭和7年12月31日～昭和8年12月30日）／上映未確認の作品／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品のメモ／昭和8年度監督別作品製作リスト／「日本映画プロダクション聯盟についてのノート（その3）」 **その7 昭和9年**（昭和62年7月発行）河合キネマの番組（昭和8年12月31日～昭和9年12月30日）／上映未確認の作品／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品のメモ／昭和9年度の監督別作品製作リスト／「日本映画プロダクション聯盟についてのノート（その4）」 **その8 昭和10年**（昭和62年8月発行）河合キネマの番組（昭和9年12月31日～昭和10年12月30日）／封切不明作品及び次年度公開「キネマ旬報」未紹介作品／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品のメモ／昭和10年度の監督別作品製作リスト／「日本映画プロダクション聯盟についてのノート（その5）」 **その9 昭和11年**（昭和62年9月発行）大都映画の番組（昭和10年12月31日～昭和11年12月30日）／封切不明作品／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品のメモ／昭和11年度の監督別作品製作リスト **その10 昭和12年**（昭和62年10月発行）大都映画の番組（昭和11年12月31日～昭和12年12月30日）／封切不詳作品／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品のメモ／昭和12年度の監督別作品製作リスト **その11 昭和13年**（昭和62年11月発行）浅草・大都劇場の番組（昭和12年12月31日～昭和13年12月30日）／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品のメモ／昭和13年度の監督別作品製作リスト／「日本映画プロダクション聯盟についてのノート（その6）」 **その12 昭和14年**（昭和62年12月発行）浅草・大都劇場の番組（昭和13年12月31日～昭和14年12月30日）／封切不明作品／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品のメモ／昭和14年度の監督別作品製作リスト **その13 昭和15年**（昭和63年1月発行）浅草大都劇場の番組（昭和14年12月31日～昭和15年12月30日）／「キネマ旬報」未紹介・未批評作品のメモ／昭和15年度の監督別作品製作リスト／「日本映画プロダクション聯盟についてのノート（その7）」 **その14 昭和16年**（昭和63年2月発行）浅草大都劇場の番組（昭和15年12月31日～昭和16年12月30日）／昭和16年度の監督別作品製作リスト **その15 昭和17年**（昭和63年3月発行）浅草大都劇場の番組（昭和16年12月31日～昭和17年4月23日）／昭和17年度の監督別作品製作リスト／「日本映画プロダクション聯盟についてのノート（その8）」

▼『新東宝映画の公開記録』（昭和61年12月1日発行 塚田嘉信）

昭和22年2月～昭和36年5月／「新版改題再公開作品の原題早見表」／「倒産時、仕掛け作品の後始末」／追補「新東宝が輸入及び配給した外国映画」

▼『ブルーバード映画の記録』（山中十志雄 塚田嘉信 1984年4月1日発行）

〔口絵〕ブルーバード映画のタイトル／ブルーバード映画とは／日本で公開されたいわゆる“ブルーバード映画”の興行記録／ブルーバード映画“新聞広告”これくしょん／題名索引／ブルーバード映画のフィルム・リスト／未輸入ブルーバード映画一覧／〔付録〕帝国館“第一新聞”「南方の判事」封切号

▼『ブルーバード映画の記録〈追補〉』（山中十志雄 塚田嘉信 昭和59年8月1日）

「ブルーバード映画の記録」正誤表／その後の調査によって判明した事柄／未輸入ブルーバード映画一覧／「映画芸術」改題「活動写真」大正九年新年特別ユニバーサル号／青島映画についての投書から／赤羽劇と胡蝶劇／バタフライ映画について―「活動之世界」から―

▼『ブルーバード映画通信』（山中十志雄 塚田嘉信 1984年～〔4月20日現在〕）

「ブルーバード映画の記録」正誤と補遺／「映画芸術」改題「活動写真」大正九年新年特別ユニバーサル号／青島映画についての投書から

▼『ブルーバード映画の記録〈資料復刻〉雑誌「ユニヴァーサル」より 思い出集』（山中十志雄 塚田嘉信 1985年3月）

「ユニヴァーサル今昔」（佐伯啓造 大正15年1月号）／「ユニヴァーサル映画 今昔物語」（久江京四郎 大正15年8月号）／「ユニ

ヴァーサル今昔物語 思ひ出懐かし」(久江京四郎 大正 15 年 9 月号) / 「あゝ幻に浮ぶ若き日の夢 思ひ出懐し青鳥映画」(久江京四郎 大正 15 年 10 月号) / 「在りし日の想出懐かし 青鳥映画 (二)」(久江京四郎 大正 15 年 11 月号) / 「思ひ出深し 赤羽映画 胡蝶映画」(久江京四郎 大正 15 年 12 月号) / 「懐かしきブルー・バードの夢 女流監督とユ社の今昔 (一)」(塘淳之介 昭和 2 年 2 月号) / 「懐かしきブルー・バードの夢 女流監督とユ社の今昔 (二)」(薄龍三 昭和 2 年 4 月号) / 「懐かしきブルー・バードの夢 逝けるレイノルズ」(薄龍三 昭和 2 年 5 月号) / 「思ひ出懐かし ユ社の喜劇から」(薄龍三 昭和 2 年 6 月号) ほか

●第6巻● 補遺1 未刊・未完・未配布・私家版集成

▼『「映画史料発掘」特集号「ジゴマ」追跡』(塚田嘉信 私家版 1983 年)

東京朝日新聞の記事(大正元年 10 月 5 日付～13 日付) / 東京日日新聞の記事(大正元年 10 月 10 日付・12 日付・14 日付) / 横浜貿易新報の記事(大正元年 11 月 1 日付)

▼『新宿終点 武蔵野館 <大正12年10月～昭和3年7月>』活動写真常設館上映番組一覧シリーズ(1)

(塚田嘉信 私家版 1985 年)

▼『浅草新畑町 日本館 <大正12年12月22日～昭和3年2月5日>』活動写真常設館上映番組一覧シリーズ(3)

(塚田嘉信 私家版 1985 年)

『ニッポンカン・ニュース』第 22 号(大正 13 年 5 月 15 日発行) / 『ニッポンカン・ニュース』第 56 号(昭和 2 年 10 月 14 日発行) も掲載

▼『浅草公園 千代田館 <大正12年12月30日～昭和5年12月4日>』活動写真常設館上映番組一覧シリーズ(5)

(塚田嘉信 私家版 1985 年)

『千代田週報』第 19 号(大正 13 年 6 月 5 日発行) も掲載

▼『浅草公園 キネマ倶楽部 <大正14年10月30日～大正15年6月10日>』

活動写真常設館上映番組一覧シリーズ〔番号なし〕(塚田嘉信 私家版 1987 年)

▼『浅草公園 帝国館 上映番組一覧(大正13年～昭和3年)』(製作年不詳)

▼『浅草公園 東京館 上映番組一覧(大正13年～昭和10年)』(製作年不詳)

▼『浅草公園 富士館 上映番組一覧(大正13年～昭和2年)』(製作年不詳)

▼『浅草公園 大東京 上映番組一覧(昭和8年～昭和10年)』(塚田嘉信 私家版 1985 年)

▼『震災から戦災まで 東京主要映画常設館番組一覧 そのⅡ 大正14年～昭和2年』(塚田嘉信 私家版 1984 年)

①浅草公園 帝国館(1 月〔第一稿]) ②浅草公園 日本館(2 月〔第一稿]) 大正 14 年 ③浅草公園 東京館(3 月〔第一稿]) ④浅草公園 千代田館

▼『映画史研究基礎資料 東京における活動写真 <昭和戦前篇>

①昭和元～2年・主要常設館上映番組一覧』(塚田嘉信 私家版)〔1985 年〕

富士館(浅草公園) / 観音劇場(浅草公園) 富士館移転興行 / 三友館(浅草公園) / 富士館 / 神田日活館(神田駿河台下) / 電気館(浅草公園) / 歌舞伎座(木挽町) / 松竹館(浅草公園) / 新宿松竹系(新宿追分) / 千代田館(浅草公園) / 大東京(浅草公園) / 遊楽館(浅草公園) / 三友館(浅草公園) / 大勝館(浅草公園) / 大東京(浅草公園) / キネマ倶楽部(浅草公園) / 帝国館(浅草公園) / 日本館(浅草公園) / 東京館(浅草公園) / 遊楽館(浅草公園) / 邦楽座(丸の内) / 武蔵野館(新宿角筈) / 葵館(赤坂溜池) / シネマパレス(神田万世橋) / 南明座(神田小川町) / 芝園館(芝園橋) / 目黒キネマ(市電目黒終点) / シネマ銀座(銀座竹川町) / 六本木松竹(六本木) / 牛込館(神楽坂上) / 渋谷キネマ(百軒店)

▼ 関東大震災特輯 各映画雑誌目次集(製作年不詳)

『活動倶楽部』第 6 巻 10 月号「活界大震災号」より表紙・目次・「校正室から」(小林京呆)・奥付 / 『蒲田』16 号 10 月号「大震災避難臨時京都号」より表紙・目次・「編輯後記」(橘弘一路) / 『蒲田』17 号 11 月号「大震災避難臨時京都号」より表紙・目次・「編輯者の言葉」(橘弘一路) / 『日活画報』第 1 巻第 5 号「大震災号」より表紙・目次・「編輯後記」(伊藤和夫)・奥付 / 『キネマ旬報』第 144 号「震災後復活記念号」より表紙・背表紙・「復活号 巻頭言」(キネマ旬報社)・「其後の事ども」(田中三郎)・「婦社の御挨拶」(田村幸彦)

▼『キネマ旬報「時報」欄項目 一関東大震災以後一(初校)』(製作年不詳)

『キネマ旬報』第 144 号(大正 12 年 11 月 21 日)～第 328 号(昭和 4 年 4 月 21 日)まで計 165 号分の「時報」欄項目

▼『日本劇場開場一力年の番組一覧』〔昭和8年12月～昭和10年3月〕(塚田嘉信・私家版No.2 昭和 62 年 2 月)

昭和8年(12月24日～12月31日)／昭和9年(1月13日～12月13日)／昭和10年(1月1日～3月14日)ほか

- ▼『実川延松とマキノ・プロダクションとの関係資料 改訂版』(塚田嘉信 私家版 昭和61年7月21日)
- ▼『市川右太衛門プロダクションについてのノート 増補版』(塚田嘉信 私家版・増刊1 昭和62年3月)
- ▼『日本映画プロダクション聯盟についてのノート』(製作年不詳)
- ▼『「大日本天然色映画」についてのノート』(塚田嘉信 私家版3 昭和61年7月27日)
- ▼『「乙種フィルム目録」について』(1986年1月13日)
- ▼『戦後独立プロ系作品公開記録(昭和23年7月～昭和60年11月)』(製作年不詳)

●第7巻● 補遺2『日本映画史素稿』 集成

- ▼『日本映画史素稿』(『キネマ旬報』全66回連載・昭和10年9月1日～昭和14年6月／関連記事)

「日本映画史の確立を提案する」(田中三郎)(第536号・昭和10年4月1日)／「日本映画史素稿」(1～66)(第551号～第684号・昭和10年9月1日～昭和14年6月21日)／「日本映画史に於ける五つのターニングポイント」(田中純一郎)(第659号・昭和13年10月1日)／「四十年前の撮影機と撮影を訊く」(座談会:大塚四郎 青地忠三 杉浦六右衛門 中村正俊 杉浦千之助 田村幸彦 杉浦宗次郎 水町青磁)(第702号・昭和15年1月1日)

- ▼『日本映画史素稿Ⅱ』(塚田嘉信自筆ノート)

明治42年6月～明治45年末月(都新聞による)／「日本映画史素稿について」(昭和38年5月3日)



塚田嘉信 つかだ・よしのぶ

昭和4年10月28日、東京の湯島に生まれる。生家は、関東大震災、東京大空襲と、二度にわたって被災する。昭和17年、第三東京市立中学校(現・都立文京高校)に入学するが、肺結核で一年休学する。翌18年、福島飯坂温泉に疎開し福島中学(現・福島高等学校)に転校。翌19年4月、初めて映画雑誌『新映画』を購入。この頃から猛烈な勢いで映画館通いが始まる。敗戦を経て昭和23年に湯島へと戻り、翌24年、日本大学専門部映画学科に入学するがやがて中退する。昭和28年8月、『キネマ旬報』の投稿欄「旬報サロン」に初めて投稿が採用される。同30年、『キネマ旬報』に三回に分けて「日本映画封切総目録」、「外国映画総目録」、「内外映画作品題名総索引」が掲載される。これを契機にして編集部に迎えられ。同年11月、「封切目録」を一冊に纏めた『内外映画総目録』が『キネマ旬報』別冊として刊行される。氏の実質的な処女著作。昭和32年、キネマ旬報社を退社。同年4月、田中純一郎氏の『日本映画発達史』全三巻の索引作成に協力する。同年10月、塚田氏宅を事務局として、私家版雑誌『映画資料』を創刊。昭和34年2月、渋谷の古書展で「映画雑誌創刊号百十四種」を購入、映画雑誌創刊号コレクションの柱となる。昭和37年2月、『松竹七十年史』編纂の為に松竹社史編纂室勤務が始まる。9月、田中純一郎氏が保証人となって松竹と正式契約を交わす。昭和39年3月、『松竹七十年史』発行、5月に松竹退社。昭和40年6月、私家版の『映画雑誌創刊号目録 大正篇』を、十月に『同 昭和篇』、翌41年12月に『同 補遺篇』をそれぞれ上梓。この間、昭和40年から翌41年にかけて、映画世界社々主の橘弘一郎氏の許へ頻繁に通い、橘氏の片腕となって助手を務める。昭和45年11月、『映画史料発掘』第1号発行。以後、昭和55年10月までに36号(約480頁)を発行。昭和55年11月、『日本映画史の研究』(現代書館)を刊行、初期映画史研究にかつてない程の影響を与える一冊となる。昭和58年、私家版『雑誌「活動之友」総目次』、『雑誌「活動之世界」総目次』上梓。塚田氏自身がタイプライターを打って版下を作成し、それをコピーして自身で製本するという、全てが「手作り」の私家版である。以後、この手法で様々な研究成果を私家版で製作する。昭和60年8月、私家版『映画雑誌創刊号目録・続補遺篇』を限定五部で上梓。その後も私家版の発行を続けるが、平成7年12月15日、自宅で倒れて救急搬送され、同月22日、死去。享年66。

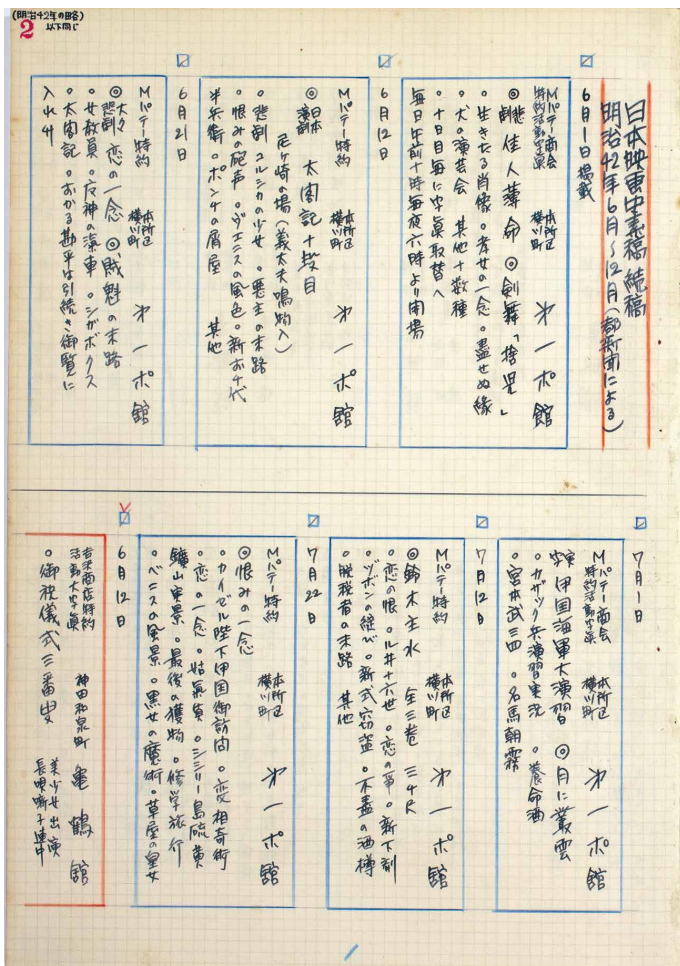
(本地陽彦・稿)



『雑誌『活動の世界』総目次』口絵頁

『入場税と映画館の入場料金』の変遷		
◎昭和13年4月1日 この日から、文部省特別税法が施行され「活動写真鑑賞場所」に「入場スル者」に入場税が課せられることになった。税率は、一人一回20銭までは免税、20銭より一律10%。		
この入場税の課税実施にともない、東京の映画館では、次のように対処した。		
(a) 従来の料金プラス10%の新税。		
(b) 新税を含めて値上げする。		
(c) 税を館で負担して従来の料金を据置く。		
その結果、東京の主要映画館の入場料金は次のように改正された。(単位/銭)		
▽浅草帝国館 (松竹直営)	a	110 55
▽富士館 (日活直営)	a	110 77
▽電気館 (新興直営)	a	55 33
▽大勝館 (S.Y直営)	a	100 55
▽日本館 (S.Y直営)	a	77 55 33
▽松竹館 (松竹直営)	a	55 33
▽千代田館 (松竹直営)	a	55 33
▽大都会館 (松竹直営)	a	33 20
▽花月劇場 (吉本直営)	a	77 44
▽東京俱樂部 (S.Y直営)	a	55 33 20
▽新宿武蔵野館 (S.Y直営)	a	100 55
▽昭和館 (S.Y直営)	a	55 33
▽帝都座 (日活直営)	a	110 77 55
▽新宿松竹館 (松竹直営)	a	110 66 55
▽新宿帝国館 (吉本直営)	a	20 10
▽新宿大東京 (東宝系)	a	80 55
▽新宿映画劇場 (東宝系)	a	80 55
▽日本劇場 (東宝直営)	b	60
▽日比谷映画劇場 (東宝直営)	b	60
▽帝国劇場 (S.Y直営)	a	170 80 55
▽丸の内松竹国際ニュース劇場 (松竹直営)	a	10
▽第一地下劇場 (東宝直営)	a	20
▽銀座座 銀座映画劇場 (松竹直営)	a	33
▽新宿町 新富座 (新興歩合)	a	33
▽渋谷 東横映画劇場 (東宝直営)	a	50
▽渋谷 東京映画劇場 (S.Y直営)	a	100 55
▽道玄坂キネマ (S.Y直営)	a	55 33
▽渋谷日活館 (日活歩合)	a	66 44
▽渋谷劇場 (松竹歩合)	a	77 55
▽早稲田 全線座 (横口大祐)	c	30
▽麻布 新興館 (新興直営)	a	55 33
▽麻布 新富座 (日活歩合)	a	55 33
▽錦糸町 本所映画館 (東宝直営)	c	50 30
▽本邦 本邦座 (S.Y直営)	a	33
▽神田 神田日活館 (日活歩合)	a	66 44
▽銀座 映座 (東宝直営)	a	33
▽芝園 芝園館 (東宝系)	a	55 33
▽池袋 池袋映画劇場 (新興歩合)	a	55 33

『「入場税と映画館の入場料金」の変遷』第1頁



『日本映画史素稿 II』塚田嘉信氏自筆・第1頁

『活動写真常設館上映番組一覧シリーズ』		
浅草公園 キネマ倶楽部 <大正14年10月30日～15年6月10日>		
「浅草公園池の際のキネマ倶楽部は震災後復活しなかったが、生駒興行部の経営で十月三十日から各社フリープキネン制によって開館する事に成った。」(キネマ旬報表210)		
10.30 兵衛に吹く花	2.19 秘書	怪物
沙流男	2.26 栄冠は我れに	警対乙女
人間の破壊	3.5 狼の奇蹟	鉄拳児
闘争の熱血・後篇・第一	3.12 十誠	菅川紫三
11.6 人生の舞台裏	3.12 クラスメツ	相馬大作
心なき人	4.2 落花生の舞	夢現三百年往來
消燈!	4.2 落花生の舞	運命の小鳩
闘争の熱血・後篇・第二	4.2 落花生の舞	橋から橋へ
11.13 禁断の楽園	4.2 落花生の舞	報国の心
三人の女	4.2 落花生の舞	荒無六八
巴里	4.2 落花生の舞	忠次の信州落
11.20 禁断の楽園(続映)	4.2 落花生の舞	男一撃
三人の女(続映)	4.2 落花生の舞	斯末魔の復讐
桃色の乙女	4.2 落花生の舞	伴基七捕物帖
11.27 半生を母に捧げて	4.2 落花生の舞	豪勇サムスン・第一
煉獄の花	4.2 落花生の舞	消すな灯
闘争の熱血・後篇・第三	4.2 落花生の舞	妖刀村正
過ぎ行く影	4.2 落花生の舞	豪勇サムスン・第二
女性禮讃	4.2 落花生の舞	武士道
12.4 闘争の熱血・後篇・第四	4.2 落花生の舞	栄光の剣
真珠島	4.2 落花生の舞	瘦せた花婿
海の神秘	4.2 落花生の舞	
12.18 蜂雀	4.2 落花生の舞	
キック・イン	4.2 落花生の舞	
12.25 ホワイト・リスター	4.2 落花生の舞	
子供の世界	4.2 落花生の舞	
大正15年)河合徳三郎経営		
12.31 女侠赤頭巾	3.19 落花生の舞	「帝都映画界を代表する浅草公園の各館も、近來日本映画の拍頭につれて上映系統に著しき変動を来し、六月十一日より千代田館はマキノ映画の公開に於ける封切館として立つ事に成り、第一回として『お洒落狂女』を上映し、生駒遊藝氏が説明の任に當る事になった。従って今迄マキノ映画封切館たりし大東京は東亜キネマの等持院作品を主とし、アズマ撮影所映画や延松プロダクション等を封切する事に成った。又電気館の改築工事が愈々六月三日より着手せられた為、松竹館が満田映画の現代劇を封切する事に成り、帝京座で妻三郎映画を初め、松竹の時代映画が封切される事になった。」(キネマ旬報表230)というわけで、キネマ倶楽部は封切館でなくになったため、このあと昭和3年3月1日から河合映画封切館になる迄不明
1.7 女侠赤頭巾	3.26 落花生の舞	
1.15 女侠赤頭巾	3.26 落花生の舞	
1.21 女侠赤頭巾	3.26 落花生の舞	
1.29 女侠赤頭巾	3.26 落花生の舞	
2.5 女侠赤頭巾	3.26 落花生の舞	
2.12 女侠赤頭巾	3.26 落花生の舞	

『浅草公園 キネマ倶楽部』(活動写真常設館上映番組一覧シリーズ)

没後30年記念出版 映画史家 塚田嘉信：私家版・旧蔵貴重資料復刻大成

第Ⅰ期 塚田嘉信 私家版復刻集成 全7巻

〔企画・監修〕独立行政法人 国立美術館 国立映画アーカイブ 〔解題・解説〕本地陽彦（日本映画史研究家・国立映画アーカイブ客員研究員）

●揃定価：本体 154,000 円＋税 A4 判上製／カバー装 ISBN978-4-8433-6978-4 C3374

（電子書籍＝同時 1 アクセス：本体 154,000 円＋税／同時 3 アクセス：本体 308,000 円＋税）★電子書籍版は KinoDen / Maruzen eBook Library のサービスでご購入になれます。

第1回配本・全2巻 揃定価：本体 60,000 円＋税 ISBN978-4-8433-6979-1 C3374 発売中・2025 年 5 月刊

（電子書籍版＝同時 1 アクセス：本体 66,000 円＋税／同時 3 アクセス：本体 132,000 円＋税）

■第1巻■『映画史料発掘』 定価：本体 36,000 円＋税 ISBN978-4-8433-6980-7
（電子書籍版＝同時 1 アクセス：本体 39,600 円＋税／同時 3 アクセス：本体 79,200 円＋税）

■第2巻■『映画雑誌創刊号目録』 定価：本体 24,000 円＋税 ISBN978-4-8433-6981-4
（電子書籍版＝同時 1 アクセス：本体 26,400 円＋税／同時 3 アクセス：本体 52,800 円＋税）

第2回配本・全5巻 揃定価：本体 94,000 円＋税 ISBN978-4-8433-6982-1 C3374 2025 年 11 月刊行定

（電子書籍版＝同時 1 アクセス：本体 103,400 円＋税／同時 3 アクセス：本体 206,800 円＋税）

■第3巻■初期私家版雑誌等集成 定価：本体 24,000 円＋税 ISBN978-4-8433-6983-8
（電子書籍版＝同時 1 アクセス：本体 26,400 円＋税／同時 3 アクセス：本体 52,800 円＋税）

■第4巻■映画雑誌総目次集成 定価：本体 17,000 円＋税 ISBN978-4-8433-6984-5
（電子書籍版＝同時 1 アクセス：本体 18,700 円＋税／同時 3 アクセス：本体 37,400 円＋税）

■第5巻■映画作品公開記録集成 定価：本体 14,000 円＋税 ISBN978-4-8433-6985-2
（電子書籍版＝同時 1 アクセス：本体 15,400 円＋税／同時 3 アクセス：本体 30,800 円＋税）

■第6巻■補遺1 未刊・未完・未配布・私家版集成 定価：本体 17,000 円＋税 ISBN978-4-8433-6986-9
（電子書籍版＝同時 1 アクセス：本体 18,700 円＋税／同時 3 アクセス：本体 37,400 円＋税）

■第7巻■補遺2『日本映画史素稿』集成 定価：本体 22,000 円＋税 ISBN978-4-8433-6987-6
（電子書籍版＝同時 1 アクセス：本体 24,200 円＋税／同時 3 アクセス：本体 48,400 円＋税）

続刊予定

●第Ⅱ期●塚田嘉信コレクション 貴重私家版復刻集成 全4巻（予定）

収録予定：初期映画研究私家版雑誌／柴田勝私家版集成 上・下

●第Ⅲ期●塚田嘉信コレクション 貴重文献復刻集成 全7巻（予定）

収録予定：日本映画作品大鑑 上・中・下／戦後映画作品目録／敗戦前後貴重文献資料集／

『アメリカ映画ウィークリー』上・下

●第Ⅳ期●本地陽彦 著 映画史家・塚田嘉信 抄伝／解題／年譜（仮題）

※表紙は、『映画史料発掘』塚田嘉信氏自家用合冊原本、背景は『映画史料発掘』各号表紙。（資料撮影・本地陽彦）

※本企画は、JSPS 科研費 23K00130 の助成を受けた研究成果の一部である。



〒101-0047
東京都千代田区内神田 2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
<https://www.yumani.co.jp/>
e-mail eigyou@yumani.co.jp



●特におすすめしたい方●

映画史、文化史、情報史、社会史、文献史、風俗史、思想史などの研究者・研究機関・アーカイブ。映像・メディア関係専門学校など。

ご注文書	ゆまに書房 Tel.03(5296)0491 / Fax.03(5296)0493 年 月 日		取扱店
	映画史家 塚田嘉信：私家版・旧蔵貴重資料復刻大成		
	第Ⅰ期 塚田嘉信私家版復刻集成 全7巻		
	揃定価：本体 154,000 円＋税 ISBN978-4-8433-6978-4 C3374 セット		
お名前			
ご住所	TEL ()		